



敦賀市の副市長の塚本です。今、司会者の方から全員拍手していただいたということでございます。決めていただきまして、心から感謝申し上げたいと存じます。

さて、敦賀市でございますけれども、時間もいただいておりますので、後ほどその点につきましては細かいことを紹介させていただきますけれども、敦賀というのは人口7万弱のまちでございます、日本海側のちょうど真ん中に位置しております。名古屋、大阪、京都を1時間半ぐらいで結べるような地の利のあるところで、特に韓国、ロシア、中国との対岸貿易で、港ともに発展してきたまちです。

港としてはおおむね1,600年ぐらいの歴史がございます、900年代には渤海の国から使節団をお迎えする重要な場所でもございました。江戸時代は北前船、明治時代につきましては、これも後ほど説明させていただきますけれども、敦賀とウラジオストクの定期航路がございました。それがヨーロッパにつながっていたということでございます。

それから、第二次世界大戦がありまして、敦賀というのは大陸に向かう、大陸を経営していくため、ちょっと表現が悪いんですけども、満州を視野に入れたときには大変重要な基地であったということ、さらには、軍港として舞鶴港がございましたので、そこを結ぶ中継地点だったということから米軍の空襲を受けまして、2回の空襲がありました。そして、まちは壊滅状態、焼け野原となったわけでございます。

そういった経過から、戦後、敦賀の港としての立ち上がりはおくれました。そういう中、生活していかなければならないということもあって、国家戦略に基づきまして、ここ50年ぐらいはご存じのように原子力とともに共生してまいりました。特にもんじゅがございます。ここも近くに玄海がありますね。そういったところでは、地の利は似ているのかな

と思います。

しかし、3・11という非常に悲しい災害、事故がございまして、国家としてエネルギーの基本計画はどうするんだということもございましてけれども、敦賀市といたしましても、行政のかじ取りという面も含めて、非常に難しい局面に差しかかっております。

そういったことは別にいたしましても、実は当地の唐津については、うちにも甲子園に出場した気比高校のあたりに気比の松原というのがございまして、ここの唐津の虹の松原を含めまして三大松原の一つであるということで、非常に共通点があるなと思っております。

今、時はまさに人口減少、そしていかに地域創生を図っていくか、声高らかにいろいろな方々が言っておられます。そういう時代の中で、今日お集まりの方々には日本海側のそれぞれの地域からお集まりでございまして、このネットワークを生かして、それぞれの地域がより発展して地域活性化につながっていけばいいなと思います。しっかりと唐津からバトンタッチをさせていただきまして、来年は敦賀がしっかりと皆様方をお迎えしたいと存じます。どうか来年よろしく申し上げます。